

わ

が

街

わ

が

故

郷

## (株)東振精機と石川県能美市

No. 39

### 1. 能美（のみ）市と東振精機

石川県の南部、米どころの加賀平野中央部に位置する人口48千人、総面積84km<sup>2</sup>、そのうち4割強が山林、2割が農地という緑豊かな能美市に、ベアリング組込用ころの専門メーカーである株式会社東振精機は立地しています。

当社は1956年に「日本の産業振興に役立ちたい」という願いから「東（日本国を表す）振（振興の振）」と名づけられた町工場が金沢市郊外に設立され、最初に手がけたのが円筒ころの生産でしたが、大手ベアリングメーカーに購入していただけるまでには2年の歳月が必要でした。あるベアリングメーカー様に精密級の円筒ころとして採用していただき、増産体制に入りましたが、金沢の工場は周囲が水田であり、その当時はまだ工業用地として拡張することが難しかったため、62年に旧能美郡寺井町の工場誘致第1号として全面移転を行い、来年50歳の誕生日をこの地で迎えようとしています。移転以降、62年に円すいころ、68年に球面ころ、74年に中空ローラ、82年に針状ころおよび精密ピン・シャフト類と生産品種も広がり、国内外のほとんどの大手ベアリングメーカー様に納入させていただけるようになりました。また、82年以降は技術面・コスト面を追求していった中で、生産設備の主力である“心なし研削盤”の自社開

発を行い社内に展開し、88年以後は隣接する小松市にある子会社の(株)東振テクニカルで外販まで手がけています。

当社は、「創る・考える」をモットーに「今日よりは明日、明日よりは明後日と、必ず創意工夫をする」を実践し、更なる精度の向上、生産性の向上を図り、この地から世界へ発信できる“ころづくり”、中小メーカーならではの“ものづくり”を続けてまいります。

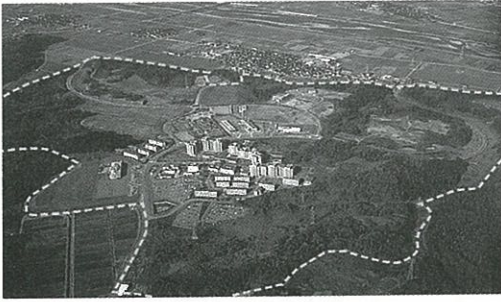
### 2. 能美市の3つの顔

能美市は、2005年(平成17年)2月に能美郡4町の内隣接した根上（ねあがり）町、寺井町、辰口（たつのくち）町の3町が合併して誕生したばかりです。県都金沢市は北東約20kmの距離にあり、南は、日本海側の拠点「小松空港」がある小松市と隣接しています。能美市には3つの顔があります。

#### ①先端技術集積の顔

能美市東部の白山山系に連なる緑豊かな能美丘陵地帯には、我が国初の国立の大学院大学である北陸先端科学技術大学院大学を核として、その周辺に約46haの先端的研究開発拠点(サイエンスパーク)が整備されています。ベンチャー企業に対して工場系、情報系の建物を土地とセットでリースすることによる企業の初期投資の軽

減措置や100Mbpsの通信回線が無料で利用できるほか、パーク内には産学官交流の拠点となる石川ハイテク交流センターや北陸IT研究開発支援センター、研究成果活用プラザなどの支援施設が充実しています。NTTのほか、県内企業の研究所が立地し、産官学連携による共同研究開発が活発に行われています。



いしかわサイエンスパーク

## ②歴史伝統の顔

当社のある能美市中央部は、手取川扇状地の平坦な地形が広がった地域で、能美古墳群などの遺跡が分布し古代から人々の生活が営まれ、加賀百万石の藩政時代には手取川を横断するために、北陸街道の宿場町・交通の要衝として栄えました。

また、350年の歴史を誇る九谷焼の里として、現在でも多くの販売会社や作家など250近い事業所が集積しています。九谷焼は、紺青・紫・黄・緑・赤のいわゆる九谷五彩をふんだんに用いた豪華絢爛たる作風で知られており、特に、江戸末期に当地で生まれた九谷庄三（しょうざ）は、洋絵具による細密描法の「彩色金欄手」という技法を確立し、明治になると海外に輸出され、その派手さが外国人の好むところとなって『ジャパングタニ』の名で人気を呼び、産業九谷としての地位を築きました（詳細はベアリング2004年1月号をご覧ください）。

毎年5月3日～5日のゴールデンウィークに

は、「九谷茶碗まつり」が開催されています。

約75店の九谷焼特設店が軒を連ね、普段では考えられないような手頃な価格で九谷焼を販売しています。この3日間は日本中から約30万人以上もの観光客が訪れます。年に一度のこのまつり、九谷焼を気軽に購入できるまたとないチャンスです。



九谷茶碗まつり

## ③文化交流の顔

能美市西部は白砂青松の海岸がある日本海に面し、源平の戦いを描いた「源平盛衰記」にも根上松（ねあがりのまつ）の周辺で激しい戦いを繰り広げたと伝えられています。今年の大河ドラマの「義経」の舞台の一つで、歌舞伎十八番「勸進帳」や謡曲「安宅」として今でも演じられている、関守富樫氏と弁慶の押し問答、そして弁慶が主君、義経を金剛杖で叩きつけた安宅の関は、この海岸沿い（小松市）にあります。安宅の関を富樫氏の温情で通り抜けることができ、弁慶が義経に叩きつけたことを謝罪した「道林」の地は能美市根上にあります。



安宅の関（小松市）



弁慶謝罪の地

### 3. 能美市にござっせ

今回は当誌2004年1月号で紹介できなかった見どころを紹介いたします。ぜひ、ござっせ(いらっしゃいませ)。

#### ①松井秀喜野球の館

能美市出身の有名人といえば、NYヤンkeesの松井秀喜と森喜朗元首相ですが、小松空港近くの能美市山口町に松井秀喜「野球の館」があります。実家に隣接しており、松井選手の幼少から現在に至るまでの記念の品々が展示してあります。さらに、2005年12月8日に「松井秀喜ベースボールミュージアム」としてリニューアルされます。



建設中の松井秀喜ベースボールミュージアム

#### ②辰口温泉

北は手取川、東は白山山系に連なる丘陵地に湧く温泉です。水田が広がる田園風景の中にあり、西には加賀平野を眺望することができます。開湯以来4百年を数える湯は、肌がつるつるになる美人の湯と評判です。明治の文豪泉鏡花に愛された温泉です。「まつさき」と「たがわ龍泉閣」の2つの温泉旅館があり、もともと地元客が多い温泉でしたが、露天風呂付客室を備えた新館や別館は関西方面からのグループ客やカップルに人気があります(「まつさき」のご主人は筆者と同級生ですので、ご希望がございましたらご用命ください)。



辰口温泉

(株式会社東振精機 中村 俊介)